

プレスリリース



令和8年1月5日

大阪大学 CAMaD

宮崎大学 CADIC/農学部獣医学科

藤田医科大学 研究推進本部 国際再生医療センター

宮崎県衛生環境研究所

大阪大学・宮崎大学・藤田医科大学・宮崎県衛生環境研究所による

SCARDA 事業における

SFTS 向け診断キット開発の研究連携について

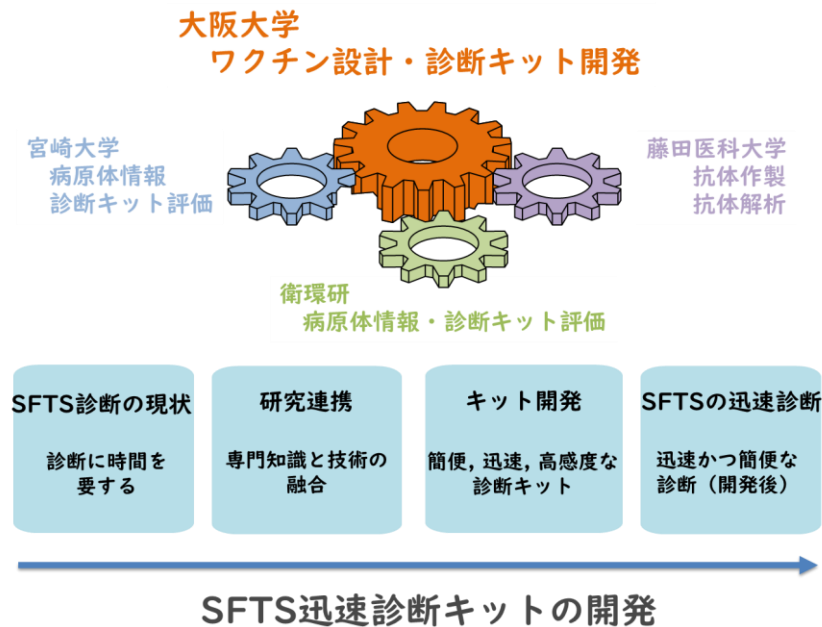
このたび、大阪大学ワクチン開発拠点 先端モダリティ・DDS 研究センター（Center for Advanced Modalities and DDS; CAMaD）（以下「大阪大学」）、宮崎大学、藤田医科大学・国際再生医療センター（以下「藤田医科大学」）および宮崎県衛生環境研究所（以下「衛環研」）は、日本医療開発機構先進的研究開発センター（AMED SCARDA）の「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」の一環として、重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome; SFTS）に対する迅速診断キットの開発に関する研究連携を開始しました。

SFTS はマダニにより媒介されるウイルス感染症として 2009 年に中国で新たに報告され、韓国、日本を始めアジア諸国での患者発生が報告されています。SFTS を発症すると重篤な症状を引き起こし、ヒトでは 20-30%にも及ぶ高い致死率が報告されています。また、伴侶動物であるネコが感染することも明らかになり、発症ネコではヒト SFTS 重症例と同様の病態を呈し、しかもその致死率は 60%に達することが確認されています。さらに発症ネコを介してヒトへも感染し、感染患者に死亡例が報告されたことから「身近な致死性人獣共通感染症」として位置付けられ、その対策が喫緊の課題となっています。

本研究連携では、大阪大学のワクチン開発における最先端の研究・開発技術、宮崎大学の獣医学・感染症研究の知見、そして藤田医科大学の抗体開発技術、および衛環研の臨床検体に関する

研究知見等を融合し、SFTS に対する簡便・迅速かつ高感度な診断キットの開発に取り組み、感染拡大防止及びワクチン開発に資する体制構築を目指します。

本研究連携の成功は、SFTS 感染症の迅速診断技術の飛躍的な発展に寄与すると共に、国内外の公衆衛生の向上に大きく貢献するものと期待されます。



本研究連携の成果としての SFTS に対する迅速診断キットが実用化されれば、現場での早期発見・隔離対応が実現し、当該地域における感染拡大の防止につながります。さらに、ヒトおよび動物の健康を一体的に守るワンヘルスの観点からも、今後の新興・再興感染症対策のモデルケースとしての波及効果が期待されます。

【本件に関するお問い合わせ先】

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター (CADIC)

担当者：岡林環樹（副センター長・教授）

連絡先：okbys81@miyazaki-u.ac.jp

ウェブサイト：<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/>（産業動物防疫リサーチセンターHP）

【発信元】

宮崎大学総務広報課

連絡先：kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp